

大阪桐蔭に春切符

2026 SPRING KOSHIIEN



新毎日新聞

1月30日(金)

2026年(令和8年)

発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号
〒530-8251 電話(06)6345-1551
毎日新聞大阪本社



近畿大会準々決勝の天理戦に勝利し喜ぶ大阪桐蔭の選手たち＝2025年10月

強力打線 近畿大会4強

センバツ 決定 特別号外 3月19日 開幕



学校プロフィール

1983年に大阪産業大高東校舎として開校した私立校。88年に大阪桐蔭として分離・独立した。95年には中森友哉選手(オリックス)、根尾昂投手(中日)、昨季で現役引退した中田翔さんら多数のプロ野球選手を輩出している。今季の全国高校ラグビー大会で準決勝に進出したラグビー部も強豪として知られる。大東市中垣内3-1-1(072・甲子園初出場は91年センバツ)。史上 870・1001。

第98回選抜高校野球大会(毎日新聞社、日本高校野球連盟主催、朝日新聞社後援、阪神甲子園球場特別協力)の選考委員会が30日開かれ、大阪桐蔭(今田悟校長)の2年ぶり16回目の出場が決まった。2025年秋の近畿地区大会で4強入りした実績が評価された。センバツでは22年以來となる5回目の優勝を目指す。組み合わせ抽選会は3月6日、大会は兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で同19日に開幕する。

【長岡健太郎】

2年ぶり16回目

昨秋の近畿大会府予選決勝の近大付戦は、初回に先制するも、2度逆転を許す苦しい展開に。その度に強力打線で粘りを見せ、競り勝ち優勝を決めた。

近畿大会では二枚看板の投手が活躍した。1回戦の市和歌山戦では、身長190センチ超えの大塚左腕・川本晴大投手(1年)が先発し、6回を被安打3、失点1に抑え、継投した右腕のエース・吉岡賢介投手(2年)が無安打の好投で快勝した。吉岡投手は速球が持ち味で、府予選の準決勝では14奪三振で完封した。

川本投手は天理(奈良)との準々決勝でも先発。6回を無失点に抑えチームはコールド勝ちで準決勝へ駒を進めた。

二枚看板が登板しなかった神戸国際大付(兵庫)との準決勝に敗れ、決勝には進めなかったが、近畿大会では強力打線も目立った。この試合では黒川虎雅主将(2年)が三塁打を放ち、1回戦では谷淵瑛仁内野手(2年)がサイクル安打を記録。内海竣太外野手(2年)も近畿大会で打率5割超えと成長著しい。

25年は春夏ともに甲子園の土を踏めなかった。先輩たちの悔しさを胸に練習を重ねてきた。目指すのは、甲子園春夏通算10度目の優勝だ。

右腕と左腕 二枚看板

応援できる幸せを、
ありがとう。



日が暮れるまで、ボールを追いかけて。
夢中でバットを振って、手にまめをつくって。
いつしかその背中は、たくましく、大きくなって。
試合を観るたび、あなたの活躍がうれしくて、たまるなくて。
悩んでいるときは、なにかできることはないかと探したりして。
気づけば、自分のことのように勝利を願っていて。

ありがとう。応援できる幸せを教えてください。

今日までの努力の日々を信じて。
春へ、いってらっしゃい。



近畿大会準々決勝の天理戦に勝利し喜ぶ大阪桐蔭の選手たち―2025年10月



近畿大会の準決勝で適時打を打ち、笑顔を見せる黒川虎雅主将
―2025年11月



神戸国際大付との近畿大会準決勝で、ピンチを切り抜けて拳を固める小泉凜太郎投手
―2025年11月

悔しさ胸に一丸



近畿大会の準々決勝で、中犠飛で生還する三塁走者・谷口球児内野手
―2025年10月



近畿大会準々決勝で力投した大阪桐蔭の先発・川本晴大投手
―2025年10月



近畿大会準々決勝で、天理から2点本塁打を放った藤田大翔捕手
―2025年10月

◇昨秋の対戦成績◇	
△近畿大会府予選△	
▽2回戦 17-0 堺西	
▽3回戦 8-1 みどり清朋	
▽4回戦 7-0 大商大高	
▽5回戦 10-0 浪速	
▽準々決勝 9-0 関西創価	
▽準決勝 2-0 金光大阪	
▽決勝 9-8 近大付	
△近畿大会△	
▽1回戦	02610002027
大阪桐蔭	00010002017
市和歌山	00010002017
▽準々決勝	
天理(奈良)	
大阪桐蔭	50300020100
▽準決勝	
大阪桐蔭	2010001004071
神戸国際大付(兵庫)	0000001004071
(六回コールド)	



毎日新聞ご購入の申し込みは毎日お客様サービスネットへ

フリーダイヤル ヨムハマニチ

ご購入、ご試読の申し込み
未配達時のお届けなど
<https://mainet.ne.jp/>

0120-468012

毎日新聞ニュースサイト

<https://mainichi.jp/>